

令和5年度 東京都立八王子東高等学校経営計画

都立八王子東高等学校長

佐藤 聖 一

1 スクールミッション

「変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育てる。各教科の学習や国際交流、論文作成などの探究的な学びを通じて身に付けた知識や技能を活用する力を養うとともに、文理を融合した思考力・判断力・表現力を育み、これからの社会において他者と協働して課題解決ができる人材を育成する。」

2 中期的目標と方策

- 進学指導重点校として、進路指導部や学年、教科が緊密に連携した、組織的な進路指導並びに学習指導を展開し、難関国公立大学等の受験者数及び合格者数の安定化とその増大を図る。また、大学入試改革による新たな選抜制度に対応した指導を行う。
- これからの時代に求められる資質・能力が身に付くよう、改訂学習指導要領の内容を踏まえた教育活動を充実したICT環境をはじめ、あらゆる手段により実施する。
- 探究的な学びを、「探究基礎」や学校設定科目「課題研究」、「英語探究」等に加え、各教科・科目の授業において、カリキュラムマネジメントを機能させ一層推進する。
また、探究的な学習の成果を生徒の進路実現に活かせるよう、探究的な学習の指導計画と進路指導とを繋ぎ、校内体制を整備する。
- Global Education Network 20 の諸事業等を活用して、英語をツールとして海外の生徒や研究者等と協働的な活動を行い、グローバル人材として必要な資質・能力を育成する。
- 理数研究校事業を通して、文理を問わず、生徒の知的探究心を刺激するための取組を一層充実させ、将来、科学技術等の分野で活躍できる人材に必要な素地を育む。
- 入学後から、生徒が定めた高い「志」に基づく、進路志望を意識させるとともに、将来にわたり学ぶ意欲を継続・発展させるため、キャリア教育の充実を図る。
- 生徒の主体性を尊重した学校行事や部活動が活発となるよう、諸場面において生徒自らが、よりよい在り方を考える場面を設定する。学業との両立を意識し最大限の成果が得られるよう環境整備を行う。
- 社会人として守るべきルールやマナーに関する生徒指導や道徳教育の充実、並びに主権者教育を推進し、社会への貢献と公共心を備えた有為な人材を育成する。
- 生徒同士が互いの個性を尊重し互いに高め合う雰囲気醸成するとともに、いじめ・体罰のない学校の実現に向け、生徒の状況を把握する。
教職員は、生徒の安全・安心の確保のため、事故やトラブルの未然防止や早期発見、早期対応に取り組み、生徒や保護者が安心できる環境作りを行う。また、生徒の個々の状況に応じた教育相談体制の構築や自殺予防等生命尊重の教育や特別支援教育を計画的に推進する。
- 入学志望者の増大に向け、都立高校PR事業を活用するとともに様々な媒体を通して、日常の教育活動等の情報をタイムリーに発信し、本校の良さを積極的にPRする。

3 今年度の取組

(1) 教育活動の目標

八王子東高校における新しい日常の実現に向け、新型コロナウイルス等に対する基本的な感染症対策を確実に実施しつつ、教育計画、教育内容や方法の改善・充実を図り、質の高い教育活動を展開する。

① 学習指導

「自ら学ぶ、自ら考える、自ら創る」ことのできる生徒を育成するため、各教科・科目の指導において、ものの見方や考え方を身に付け、探究的な活動や主体的で深い学びを促す授業を実践する。

幅広く深い教養を身に付ける指導と、全ての生徒が全ての教科・科目に全力で取り組むことにより、大学入学共通テストにおいて得点8割以上の実現を目指す。

生徒の希望進路に沿って、難関国公立大学の入試問題から、総合型選抜や学校推薦型選抜等まで、多様な大学入学選抜にも対応できる力を身に付ける指導を行う。

Global Education Network 20 指定校事業を活用して、グローバル人材として必要な資質・能力を育成する。

生徒のキャリア意識を高めるため、生徒の知的好奇心を刺激し、広い視野に立ち、物事を正しく捉え考える力を身に付ける教育活動を行う。

② 進路指導

進学指導重点校として都民の高い期待に応え、生徒一人一人の高い「志」の達成に向け、入学時から難関国立大学等への入学を意識させ、幅広い教養の獲得と大学入学共通テストフル型受験に必要な学力の定着に向け、きめ細かな指導を最後まで継続する。

全教職員が3年間の進路指導計画を共有し、学年担任団、進路指導部と各教科の十分な連携のもと、生徒の入学時の希望進路を実現する。

③ 募集・広報活動

様々な媒体を活用して、最新の学校情報を適宜・適切に発信するとともに、生徒の学校生活の成果や本校の魅力を中学生や保護者、さらには広く都民に伝えていく。

また、前年度の入学者選抜応募倍率の回復に向けて、総務部を中心に全教職員による各種学校説明会等の充実に取り組む。

④ 生活指導

全教職員が、生徒の基本的な生活習慣の確立と自分の能力を最大限に発揮し、真に社会人として自立した人間の育成を目指す。あわせて、社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を継続的に行い、良識ある行動ができる生徒を育成する。

校内において、いじめ・体罰を許さない雰囲気や教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導など、安全な学校生活を実現する。

⑤ 特別活動・部活動

学校行事や部活動に積極的かつ効率的に取り組むよう促し、他者との協働や帰属意識の醸成と成功体験を積ませる。また、生徒会活動や委員会活動、HR活動を一層充実させ、自他の個性や価値を尊重し、互いに高め合う集団づくりを目指す。

探究的な学習活動や取組を通して各種コンテスト等への参加・入賞を目指すとともに、論理的思考力を育む言語活動の充実にも努める。

⑥ 心身の健康づくり

生徒の心身にわたる健康・安全について、全教職員による指導協力体制を確立し、生徒の体力向上と心身の健康づくりを充実させる。

また、教育におけるユニバーサルデザインを進めるとともに学校全体の保健相談・カウンセリング体制の充実を図る。さらに、発達障害等に関する知識を全教職員が共有し、個別案件に対して適切な対応がとれる特別支援教育体制を整備する。

自殺予防に関する取組については、組織的な対応を推進する。

⑦ 学校経営・組織体制

常に教職員のベクトルが揃うよう、企画調整会議・各分掌部会・学年会・教科会・教科主任会等に

において円滑に意見交換できる環境を整える。また、PTA・後援会・同窓会とも連携し、校内の教育環境整備を推進する。

経営企画室は、経営目標を見据えた学校予算の編成と適正な事務執行を行うとともに、企画型・経営参画型の運営を目指す。

⑧ 健康で明るい職場づくり

所属教職員の心身にわたる健康状態に気を配り、何でも相談でき、何でも話し合える明るい職場風土の形成に努めていく。全教職員が協力・協働して行動できるように、組織的な対応に努め、個人に責任が集中しないような職場づくりを目指す。

また、ライフ・ワーク・バランスの視点から、超過勤務の縮減策を念頭におき校務にあたる。

(2) 重点目標<本年度の数値目標>

- ア 難関国公立大学（東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科）現役合格者数 15名以上
（R2実績 15名、R3実績 9名、R4実績 16名）
- イ 国公立大学現役合格者数 100名以上
（R2実績 112名、R3実績 103名、R4実績 112名）
- ウ 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上
（R2実績 238名、R3実績 228名、R4実績 234名）
- エ 大学入学共通テスト（5教科7科目型）全国平均上回り率1.25以上の得点者 75名以上
（R2実績 66名、R3実績 53名、R4実績 52名）
- オ 入学者選抜の最終応募倍率 推薦：3.2倍、一般：1.5倍
（R2実績 3.26倍・1.52倍、R3実績 2.66倍・1.61倍、R4実績 1.60倍・1.22倍）

(3) 教育活動の目標及び重点目標達成のための具体的方策

① 学習指導

- ・ 教科の指導目標、指導計画を教科担当者全員が共有し、学校全体で生徒一人一人の学力向上を実現する指導体制を整える。
- ・ 授業公開週間等による教員相互の授業参観や生徒による授業評価等を有効に活用するなどして、日々の授業を充実・改善する。なお、授業は予習を前提とした授業を展開するとともに、生徒の授業以外の学習時間確保に向け環境を整える。
- ・ 校内のICT環境や全員がタブレットPCを保有する状況を踏まえ、ICTを活用した指導内容や方法の開発と普及を継続する。
- ・ 探究部を中心として、探究学習の内容や指導方法を検討し、校内研修等により教職員の共通理解を図りつつ、大学や企業等の研究機関との連携や、海外で活躍する企業人等から学ぶ機会等を数多く設けるなど、組織的・計画的に実施する。
- ・ グローバル教育に関しては、Global Education Network 20 指定校事業を活用して、探究学習やオンライン英会話、海外研修などの取組を通して、英語をツールとして活用し海外の生徒や研究者等と協働的な活動を行う。

また、台湾・高雄高級中学との交流活動やカナダのトロントを拠点とする海外研修の充実を図る。

② 進路指導

- ・ 進路指導部と学年、教科との連携を強化するとともに、進路結果報告会や模擬試験分析等を通して、全教職員が生徒の強みと弱みを共通認識し、組織的な指導に取り組む体制を整備する。
- ・ 保護者会や三者面談等を有効に活用し、各家庭の状況を踏まえ、生徒の入学当初の高い進路希望を実現する。

③ 募集・広報活動

- ・ 探究学習をはじめ、本校の様々な教育活動の取組や成果を Twitter やホームページに画像や動画等の媒体により掲載するなどして、広報活動の充実に努める。
- ・ また、本校の志願者や学校説明会等の参加者アンケート等の分析により、効果的な広報活動を企画、実施する。さらに、一昨年度から始めた小学生対象の説明会をより充実させ、中期的な視点に立った広報活動を展開する。
- ・ ホームページ・学校案内については、都立高校PR事業を活用し、内容の一層の充実に努める。

④ 生活指導

- ・ 通学時の徒歩や自転車走行の際のマナー厳守については、集会やHRを活用するなど、継続的な指導を行う。
- ・ 自転車走行時のヘルメット着用を強く促し、安全走行と事故防止に向けた指導を継続する。
- ・ いじめ・体罰のない環境を継続するため、生徒集会・保護者会等で十分な周知を図るとともに、アンケートや聞き取り等を定期的実施し生徒の状況を把握する。
- ・ また、体罰については、指導の在り方に関して、教職員に加え部活動指導員等にも周知徹底を図る。
- ・ 首都直下型地震を想定し、消防署や地域、近隣小中学校と連携した防災訓練等に取り組む。

⑤ 特別活動・部活動

- ・ 効果的で効率的な部活動の実現に向け、生徒自らが部活動のあり方や練習方法等を考えられるよう、部長会の機能を高める。
- ・ 部活動と学習の両立が図れるよう、校内における学習環境を整備する。
- ・ 生徒会や委員会活動等を含め、様々な場面において、生徒の自律的な活動に一層の推進に向けて、教員との意見交換の場を大切にする。
- ・ 大学や企業等との連携を強化するなど、文理を問わず部活動の活性化に向け取り組む。
- ・ 大学や企業、研究所等との連携を強化し、生徒が本物に直接触れる機会を数多く設定する。
また、起業・創業への取組や政策提言、外部コンテスト、イベント等への積極的な参加を促し、視野を広げる取組を推進する。

⑥ 心身の健康づくり

- ・ スクールカウンセラーとの連携強化や校内研修を活用した事例研究などを通して、学校としての教育相談力の向上を図る。
- ・ 特別支援コーディネーターの周知を図り、個別に作成した指導計画による発達障害等の生徒への支援を行う。
- ・ 学校の教育活動全体を通して、生命尊重の教育を推進し、自殺予防について組織的に取り組む。

⑦ 学校経営・組織体制

- ・ 生徒の高い「志」を実現するため、PTA・同窓会・後援会との連携を図り、必要な教育環境の整備を進める。
- ・ 経営参画型の経営企画室運営につとめ、全教職員が一体感をもった学校運営を行う。
- ・ コンパクトな学校施設を最大限に有効活用するため、改善を要する施設への早期対応や物品の整理整頓に努める。

⑧ 健康で明るい職場づくり

- ・ ライフ・ワーク・バランスの視点から、特定の個人に業務が集中しないよう業務量を把握して適切に配分するとともに、スクラップできる業務の精査を恒常的に行うなど、超過勤務縮減を図る。
- ・ 学習環境の整備に向けた予算の適正配分を行う。